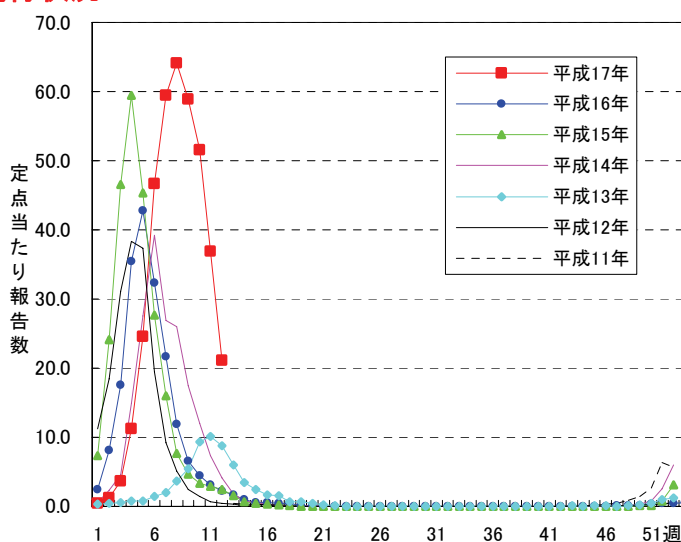


トピックス

● インフルエンザ流行状況



第 12 週の定点当たり報告数*は 21.1 人となり、前週(36.9 人)と比べ更に減少しました。

保健所(市)ごとの定点当たり報告数の詳細については「インフルエンザの保健所別報告数の推移」(2 ページ)をご参照下さい。

* 定点当たり報告数とは 1 医療機関あたりの患者数を表します。
週患者報告数の合計 ÷ 定点医療機関数(インフルエンザは 195)

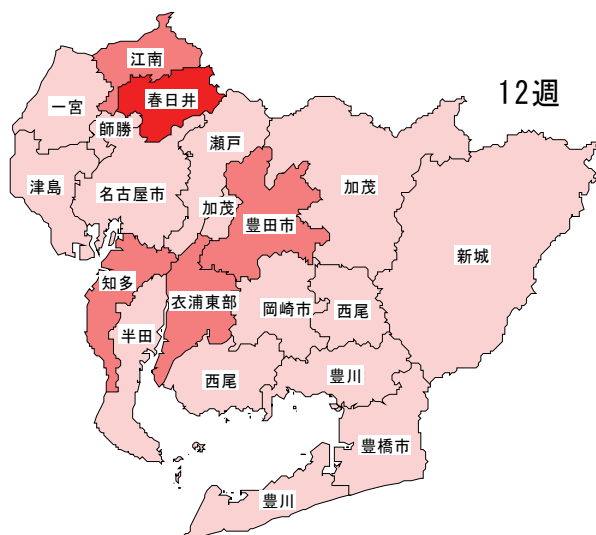
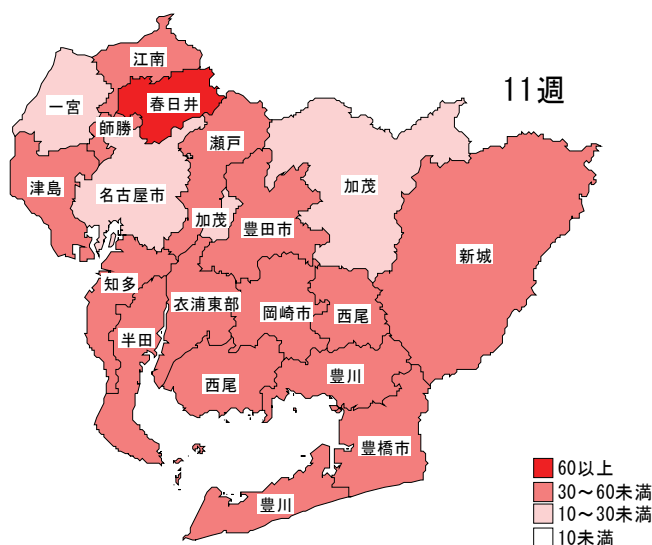
※その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

- ◆ 愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)
- ◆ インフルエンザ関連情報リンク (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)
- ◆ 愛知県のインフルエンザの流行予測について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)
- ◆ インフルエンザウイルス分離状況 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri04_05.html)

<インフルエンザから身を守るには>

- ① 過労を避け、十分な睡眠、栄養、保温に心がけて体調を整えましょう。
- ② 人混みへの外出をできるだけ避け、帰宅時には、うがい、手洗いをしましょう。
- ③ かかった時は、早めに医師の診察を受け、安静に保つことにより、肺炎などの合併症を防ぐよう心がけましょう。特に、高齢者の方は、インフルエンザの症状があまりでないが、長引くと肺炎など重症になる可能性があるため、かぜの症状がでた場合、早めに医療機関を受診することが大切です。なお、医療機関を受診する際には感染させたり感染してしまうことがないように、なるべくマスクをしましょう。

インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



		12週	定点 当たり	11週	定点 当たり			12週	定点 当たり	11週	定点 当たり
名古屋市	○	721	10.3	1397	20.0	岡崎市	○	324	29.5	550	50.0
瀬戸	○	264	29.3	390	43.3	衣浦東部	○	379	34.5	655	59.5
津島	○	89	12.7	263	37.6	西尾	○	64	12.8	168	33.6
師勝	○	68	17.0	171	42.8	豊田市	○	313	39.1	429	53.6
一宮	○	195	12.2	409	25.6	加茂	○	43	14.3	76	25.3
春日井	○	562	62.4	885	98.3	豊橋市	○	268	22.3	509	42.4
江南	○	193	32.2	329	54.8	豊川	○	191	21.2	313	34.8
半田	○	163	27.2	278	46.3	新城	○	39	19.5	61	30.5
知多	○	233	33.3	307	43.9						

○ は今週警報が出ている保健所(市)です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所(市)定点当たり10人を越えた場合に、また、流行発生警報は30人を越えた場合に発生し、10人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 病原性大腸菌O1 2歳男、5歳男
病原性大腸菌O25 3歳女
マイコプラズマ、インフルエンザ共にまだ確認される上に、エンテロウイルス感染症が多数見受けられました。
【尾西市 城後小児科】
- インフルエンザは在宅老人に発症が多い。接種者の患者です。
【一宮市 医療法人かすがい内科】
- インフルエンザ減少中ですが、B型まだ多く見られます。
今年の冬は肺炎球菌の検出が過去2年に比して少なかったです。
【犬山市 武内医院】
- インフルエンザA型45例(ワクチン接種者19例)、B型6例(ワクチン接種者3例)
水痘が増えてきました。
ムンプスも続発中。
手足口病がでてきました。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- インフルエンザ少なくなってきました。
(A23名、B型25名。1名は今シーズン2回のA型に罹患されています。)
溶連菌感染症5名、アデノウイルス感染症2名ありました。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- インフルエンザ減りませんね。B型は5例と少ないです。
【江南市 河野小児科】
- 12ヵ月女、1歳1ヵ月女ロタウイルス(+)
インフルエンザがピークを過ぎました。
【春日町 丹羽医院】
- インフルエンザ A型15名、B型3名
【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

- インフルエンザは37名と減少していますが殆どA型です。
A型のうち55%はワクチン済です。
アデノウイルス感染もみられます。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザ激減しました。(全てA型でした)
乳幼児の嘔吐・下痢、少し目立ちます。
アデノウイルス感染症も数例みられています。
その他、溶連菌感染症、流行性耳下腺炎散発
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- 21歳女 A型インフルエンザ
【豊明市 豊明団地診療所】
- 相変わらずインフルエンザが多いようです。
【春日井市 春日井市民病院】
- インフルエンザ32例 A型22例、B型10例
ロタ胃腸炎多数
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- インフルエンザの流行も終息してきました。
今週はすべてAです。
【春日井市 かがわ北病院】
- ロタ腸炎は減少
インフルエンザ流行つづく(ほとんどがA型)
【小牧市 小牧市民病院】
- インフルエンザは急速に終息しつつあるようです。A型が80%です。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- インフルエンザ A型23名、B型3名
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
- インフルエンザA 14件、インフルエンザB 3件
【半田市 医療法人林医院】
- A型インフルエンザ 7名、B型インフルエンザ 23名
水痘、感染性胃腸炎 散発
【南知多町 医療法人大岩医院】
- インフルエンザ激減してきました。
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
- インフルエンザB型は減ってきました(男6名、女2名)。他の36名はA型です。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

- 1歳女 2名 ラピッドテストロタノ/アデノ(ロタ+)
6ヵ月男 ディレクティジェンRSV(+)
11歳男 StrepA (+)
2歳男 カンピロバクタ腸炎
インフルエンザA型 9名
インフルエンザB型 6名
【豊田市 星が丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザA 5名
インフルエンザB 7名
【豊田市 田中小児科医院】
- インフルエンザ A型34名、B型10名
【岡崎市 医療法人深田小児科】
- インフルエンザはA優位です。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 1歳女 アデノ(+)
9歳男 マイコプラズマ
4歳女 病原性大腸菌O25 VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
- インフルエンザ A型28名、B型6名
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- インフルエンザ21例 A型2例、B型19例
【岡崎市 栗屋医院】
- インフルエンザ
A型 8人(予防接種あり 6人)
B型 2人(予防接種あり 1人)
臨床診断 3人
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
- インフルエンザ減っていますが、出ている主体はA型です。
【碧南市 永井小児クリニック】
- FluA:6 B:2
ロタ(+)
【刈谷市 田和小児科医院】
- インフルエンザ定点総検体数 290、A型78、B型40、陽性率41%
【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】
- インフルエンザ17名
【知立市 宮谷クリニック】
- インフルエンザが激減しました。
ムンプスが流行しています。
【三好町 三好町民病院】
- インフルエンザA 9歳女(ワクチン接種済)
【西尾市 やすい小児科】
- インフルエンザ減少(A型8人、B型16人)
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

- 2歳男 アデノ扁桃炎
5歳女 マイコプラズマ肺炎
【豊橋市 野村小児科】
- A型11名、B型3名の合計14名
インフルエンザ少なくなりました。
【豊橋市 おだかの医院】
- インフルエンザやや減少 A型がほとんどです。
マイコプラズマ増加
【豊川市 豊川市民病院】
- インフルエンザの患者は減った(インフルエンザのキットがなくなった)。
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 発生報告なし

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- アメーバ赤痢1例(推定感染地域:国内、推定感染経路:不明)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-1>)
- 後天性免疫不全症候群1例(AIDS、推定感染地域:国内、推定感染経路:性的接触)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

天候不順の春ですが木蓮や連翹が咲いて季節を教えてくれています。花粉症の涙で曇る窓ガラスごしに校庭をみていると春着で華やかに装った学生達がのんびり歩いています。3 月も今日でおわります。いつも貴重な情報を有難うございます。3 月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザが増加、B型インフルエンザはピークを過ぎた印象で、ロタウイルス腸炎は多い状況が続き、水痘とムンプスが散発中でインフルエンザ、ロタウイルス腸炎の重症例が入院、マイコプラズマ肺炎は一定の入院がありほとんど変動なし、第二日赤岩佐先生からはムンプスと水痘が外来受診、入院ではロタ腸炎、インフルエンザBが目立ちA型：B型は 1：9 程度、三菱病院入山先生からはインフルエンザが目立ち（B型優勢、A混在）入院例が約 10 名、感染性胃腸炎（病原性大腸菌O1、O18、O25 等で数名入院）、ロタウイルス腸炎 1 名（入院）、マイコを含む肺炎で数名入院、水痘 1 名あり、中京病院柴田先生からはインフルエンザAとBが流行（要入院例あり）、ロタウイルス腸炎の入院あり、大同病院水野先生からはインフルエンザ患者がまだ続き、アデノウイルス感染症も多く、水痘とムンプスもあり、ロタウイルス腸炎で要入院例あり、ロタウイルスを含むウイルス性腸炎（腹痛だけの児も多い）が目立ちインフルエンザで仮性クループを合併、入院例ありとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎 4 例、感染性胃腸炎 19 例、水痘 2 例、ムンプス 2 例といずれも散発、インフルエンザ多発が持続中でA型とB型の割合は約 1 対 1 となっている、江南市昭和病院小児科からはA群溶連菌感染症とインフルエンザが流行中で入院が目立ち（AもBもあり）、アデノウイルス感染症、ロタウイルス胃腸炎の入院目立つ、瀬戸陶生病院山口先生からはインフルエンザ（Bが主体であったがAがやや増加傾向）の入院例目立ちアデノウイルス上気道炎やや増加（少数例だが入院あり）、ロタウイルス感染症の入院あり、常滑市民病院上田先生からはインフルエンザウイルス感染症（入院目立つ）、ロタウイルスを含む感染性腸炎（入院目立つ）、溶連菌感染症、水痘が目立ちマイコプラズマ肺炎の入院も目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：刈谷市田和先生からはインフルエンザA型 21 名、B型 44 名で3月第3週に入ってAの増加傾向あり、ロタ腸炎 6 名（下痢の子は殆どがロタ陽性）、水痘 5 名、豊橋市からはインフルエンザA又はBが目立ち、ロタウイルス腸炎と溶連菌感染性が少数例あり（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2005 年 3 月 4 日（80 巻 9 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8009/en/>

☆ ペスト。コンゴ共和国の最新情報（承前）：05 年 2 月 25 日、WHO と同国保健省による疫学者、臨床医、統計学者、検査専門家（WHO とパスツール研）のチームが肺ペスト発生が疑われる東部州バスウェレ郡に到着、強力な調査開始。4 例の可能性例（1 例死亡）、4 例の疑い例が報告され、34 検体が首都キンサシャへ搬送。113 名の患者接触者の監視、国境なき医師団による治療センター開設、WHO は 500 kg に及ぶ器材、医薬品を搬入した。

☆ 地球規模における麻疹による死亡例減少。1999 年—2003 年：麻疹の小児死亡に占める重要性は特に途上国において顕著である。WHO とユニセフ合同の麻疹死亡 2001—05 作戦は麻疹死亡が重荷となっている 45 カ国を重点に麻疹死亡減少作戦を展開している。作戦の目標は①麻疹ワクチン接種率 90%以上、②全ての小児が 2 回目の接種を受けられること。03 年 5 月、世界保健会議は 02 年までに麻疹死亡を 99 年に比し半減するという目標を採択。本報は最近の目標達成状況の概略である。①予防接種活動：毎年 6 月に各国から報告。WHO/ユニセフの推定では麻疹定期接種 1 回目の接種率は地球全体で 99 年の 71%が 03 年には 77%に増加、地域差が大きくアフリカ 99 年 55%（03 年 65%）、南アジア 54%（67%）、東アジア・太平洋 83%（83%）、他の地区 91%（92%）と上昇している（表あり）。重点 45 カ国のうち 2 回法で定期接種実施 23 カ国、希望者は 2 回目も可能 7 カ国、1 回だけが 15 カ国であった（地図あり）。②麻疹による死亡数の推定：サーベイランスの限界、死亡届の不備などから地球規模の麻疹死亡のモニタリングは不十分であり専門家委員による WHO への勧告が出ているがサーベイランスから推定される死亡数は世界全体で 99 年には約 87 万名、03 年には約 53 万名と 39%減少、最も減少率の高いのはアフリカ地区で 46%減であった。

☆ 世界のインフルエンザ。04 年 9 月—05 年 1 月：世界的には前年同期に比し穏やかであった。04 年 10 月に北米で始まった流行は 05 年 1 月には徐々に増加、北米（米国、カナダ）、欧州 5 カ国（ベルギー、アイスランド、ポルトガル、スペイン、スイス）に拡大。A（H3N2）主体で A（H1N1）、B の小規模流行もあった。いずれの流行株も過去の流行株類似であった。03 年 12 月—05 年 1 月に 55 例の鳥型高病原性ウイルス A（H5N1）型感染がタイ、ベトナム、カンボジアで発生、人から人への伝播は認められていないが WHO は監視継続中（国別・月別の分離株型の詳細な一覧表あり）。

☆ 2 月 25 日—3 月 3 日届出。コレラ：マラウイ、タンザニア。

2005年3月11日(80巻10号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8010/en/>

- ☆ デング出血熱(DHF)。東チモール:05年2月28日時点で336例入院(死亡27)、そのうち263例はWHO診断基準でDHFと一致、73例はデング熱(DF)。76%が首都ディリで発病。血清型は3型。日本の感染研がディリの検査室を支援。タイのDHF/DFセンターがWHOの支援の下に治療に参加。WHOと同国保健省が医療関係者の講習を実施後、死亡率は16.3%から3.6%に減少。保健省はWHOや米国AID(Agency for International Development)の支援で媒介蚊駆除のために殺虫剤散布をハイリスク地区に実施中。
- ☆ ペスト。コンゴ共和国の現状:05年3月9日専門家チームの報告。昨年12月15日以来114例(110疑い例、4可能性例、死亡54例)、東部州。2例の敗血症ペストを除き全例肺ペスト。首都キンサシャの検査室で18検体中10検体が菌陽性(喀痰)で接触者214名が追跡調査中、国境なき医師団が治療センター運営中。
- ☆ ラッサ熱。西アフリカ:1950年代から発生が伝えられていて69年にウイルスが分離されたウイルス感染症(注:日本では1類感染症)。野生のげっ歯類がウイルス保持、その排泄物などの直接・間接の接触で感染。人から人への感染や実験室内感染、特に患者血液や体液の直接接触による院内感染が高率に発生、要入院患者の死亡率は15%に及ぶが早期からの入院加療、リバビリン投薬で治癒例増加。マラリア、腸チフス、黄熱、他の出血熱等と鑑別が必要。検査可能な施設は限られている。西アフリカ諸国に常在。マノ河連合(ギネア、リベリア、シエラレオネ)、ナイジェリア、象牙海岸がハイリスク地域。紛争による難民の移住、国際人道援助メンバーなどで感受性者が集積し罹患者が増加中。最近の話題として①シエラレオネで04年冬、小児病院で発生、看護スタッフも罹患。04年1月1日-4月24日、95例。平均18歳。男女半々。発病者の死亡率は30-50%(1歳以下の小児では71%)。医療器材、薬物の共同使用が認められていて院内感染対策実施で発生は消退。②マノ河連合3国の対ラッサ熱ネットワークがWHOの支援で米国災害緊急支援室、政府系・非政府系の団体の努力で開設された。
- ☆ 風疹。モルディブにおけるレトロスペクティブ調査:03年12月、政府による調査。インド洋の小島。人口27万、乳幼児5千5百人。1985年から定期予防接種開始(BCG、DTP、ポリオ、麻疹、02年からB肝ワクチンも。接種率は90年で90%、02年で98%。麻疹ワクチン単独でMMRは希望者だけで接種率不明。①風疹IgM、IgG抗体検査を酵素抗体法を用いてインディラ・ガンジー記念病院で99年1月から03年11月に実施。同病院受診者。99-03年計509検体。00年4月から11月に流行あり、IgM抗体陽性者が集中。同病院受診女性のIgG抗体保有率からは15-29歳で37%が抗体陰性で感受性者(検査数279)、30-44歳で91名中16%が感受性者であった(グラフあり)。②先天性風疹症候群が3例、1例は難聴、網膜症、1例は難聴、網膜症、白内障、1例は失明、知的発達遅延があった。他に1例無症状でIgM高値の例も先天性感染に分類された。以上の結果からモルディブではまず妊娠可能な年齢の女性に対するワクチン接種、ついで小児の定期接種が勧告される。
- ☆ 3月4-10日届出。コレラ:コンゴ共和国、赤道ギニア、ジンバブエ。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第12週(平成17年1月3日～平成17年3月27日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ (成人麻しんを除く。)	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	112	74,046	382	2,216	15,449	3,221	260	253	1,097	12	9	44	7	2,101	1	266	1	0	82	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	94	58,768	287	1,573	11,032	2,494	220	199	844	12	3	28	5	1,605	1	216	1	0	82	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	18	15,278	95	643	4,417	727	40	54	253		6	16	2	496		50					
尾張東部	9	9	2	3	1	14	3,819	84	149	506	135	1	20	49		2	3	1	46		6			26		
海部	7	7	2	2	1		3,118		59	921	102	5	13	33					180		7			2		
尾張中部	4	4	1	1			1,963		47	361	97		8	13					8		8					
尾張西部	16	12	3	4	1		4,181	11	85	840	178	53	8	67					111	1	7	1				
尾張北部	9	9	2	3	1	17	6,458	72	100	785	199	6	12	86	1	1	7	1	92		18					
	6	6	1	2		3	2,604	32	177	749	133	23	1	87			1	1	165		16					
知多半島	6	6	1	2	1	5	2,596	25	48	548	199	27	20	31			1		124		5			1		
	7	7	2	2		7	3,496	11	273	656	118	2	10	76			1		151		2					
西三河南部	11	7	2	2	1	3	5,838	2	102	302	153	33	10	102	2		2		193		5					
	11	11	2	4	1	5	7,634	4	97	698	313	14	50	77			2		182		56			1		
	5	5	1	2	1	11	1,795	6	63	358	127	20	9	37			3		39		16					
西三河北部	8	8	2	3	1	8	4,093	4	157	2,229	249	16	8	76	8		1		162		39			33		
	3	3		1			940	6	20	246	76	6	3	14			1		5							
東三河南部	12	8	2	4	1	1	6,229	28	106	983	156	6	8	58			4		30		27			17		
	9	8	1	2	1	20	3,378	2	89	822	243	7	19	37	1		2	2	112		4			2		
東三河北部	2	2			1		626		1	28	16	1		1					5							

